

平成18年度

## 病害虫発生予察注意報（第2号）

平成18年6月2日  
茨城県病害虫防除所

### ナシを加害するカメムシ類の発生が平年より多くなると予想されます 越冬世代成虫のナシ園内への飛来が活発化しているため、発生に十分注意して下さい

作物名 : ナシ  
病害虫名 : 果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ越冬世代）

#### [ 発令の内容 ]

発生量 : 多い  
発生地域 : 県下全域

#### [ 発令の根拠 ]

本年2月、県内42地点でチャバネアオカメムシの落葉での越冬量を調査した結果、1地点当たり平均虫数は13.1頭で、過去10年中最も多かった（第1表）。  
5月に行った笠間市のサクラ（桜樹）でのたたき落とし調査では、チャバネアオカメムシの発生量は、過去5年中で最も多かった（第2表）。  
5月第6半旬現在、予察灯（笠間市）への飛来は過去11年中3番目に多い（第3表）。  
5月下旬現在、ナシ園でカメムシ類の発生が確認されている。  
越冬世代成虫の主な餌のひとつであるサクラの果実は、残りが少なくなっており、今後餌を求めてナシ園へも飛来すると考えられる。

#### [ 防除対策 ]

ナシ園内でカメムシ類の発生を確認した場合、収穫前日数に注意して、第4表を参考に薬剤による防除を行う。  
各薬剤とも直接虫体にかかれば効果は高いが、残効期間は合成ピレスロイド系、有機ケイ素系、ネオニコチノイド系薬剤で5~10日程度、有機リン系薬剤で2~3日程度である。  
また、ネオニコチノイド系薬剤は、忌避効果が高い。  
合成ピレスロイド系薬剤は、カメムシ類に対して効果が高いが、天敵類に及ぼす影響も大きく、ハダニ類やカイガラムシ類の多発生を招く恐れがあるので注意する。  
薬剤防除は、カメムシ類の活動が鈍い早朝に行う。  
多目的防災網（6mm目以下あるいは9mmクロス目以下）を張るなどの物理的な防除対策を行う。  
今後、カキ・ブドウ・リンゴなどのナシ以外の果樹園への飛来も予想されるので、十分注意する。  
薬剤を散布する場合は、周囲への飛散（ドリフト）に十分注意した散布方法で行う。

第1表 チャバネアオカメムシの越冬量（落葉30リットルあたりの虫数）

地域	地点数	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	平均値
県北	24	0.0	1.7	1.6	0.2	22.4	0.3	3.6	0.1	0.1	21.7	3.4
鹿行	9	0.2	0.7	0.6	0.2	2.7	0.0	0.7	0.0	0.1	1.8	0.6
県南	6	3.3	2.3	3.6	0.0	1.7	0.5	0.3	0.8	0.0	0.5	1.4
県西	3	0.3	0.0	0.0	0.0	0.3	0.3	0.0	0.0	0.0	3.7	0.1
全県	42	0.7	1.3	1.5	0.2	12.2	0.3	2.3	0.2	0.1	13.1	2.1
全県の発生地点率(%)		14	55	37	11	75	22	48	10	7	74	-

第2表 サクラにおけるチャバネアオカメムシの発生推移  
(頭/10結果枝)

	H14	H15	H16	H17	H18
5月上旬	0	19	2	0	5
5月中旬	0	7	5	0	20
5月下旬	0	7	0	1	29
計	0	33	7	1	54

第3表 予察灯におけるチャバネアオカメムシ誘殺数(笠間市)

	H 8	H 9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18
5月第1半旬	0	0	0	0	0	0	2	14	2	0	0
5月第2半旬	0	0	1102	4	0	1	0	5	1	0	1
5月第3半旬	0	1	14	3	0	60	0	10	3	0	16
5月第4半旬	0	1	681	25	0	384	0	2	0	0	44
5月第5半旬	0	0	55	16	1	877	0	0	0	0	118
5月第6半旬	21	0	105	28	23	1662	2	75	21	0	945
計	21	2	1957	76	24	2984	4	106	27	0	1124

第4表 ナシのカメムシ類に登録のある主な農薬(平成18年5月25日現在)

系統	薬剤名	希釈倍数	収穫前日数 - 本剤の使用回数	有効成分 - 有効成分の 総使用回数
有機リン	エルソ水和剤 40 <sup>1</sup>	800~1,000倍	30-6	PAP-6
合成 ピレスロイド	スカトフロアブル	1,500倍	前日-5	トクロメトリン-5
	ロティー水和剤	1,000倍	前日-2	フェンプロパトリン-2
ネオニコチノイド	アクタラ顆粒水溶剤	2,000倍	前日-3	チアメトキサム-3
	スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	前日-3	ジメトアトリン-3
有機ケイ素	MR.ジョーカー水和剤	2,000倍	14-2	シラフルメフェン-2

1:対象作物は「日本なし」

注1)農薬を使用する際は、農薬ラベルに記載の使用方法・注意事項等を確認のうえ使用してください。

注2)農薬散布にあたっては、周囲への飛散(ドリフト)に十分注意してください。